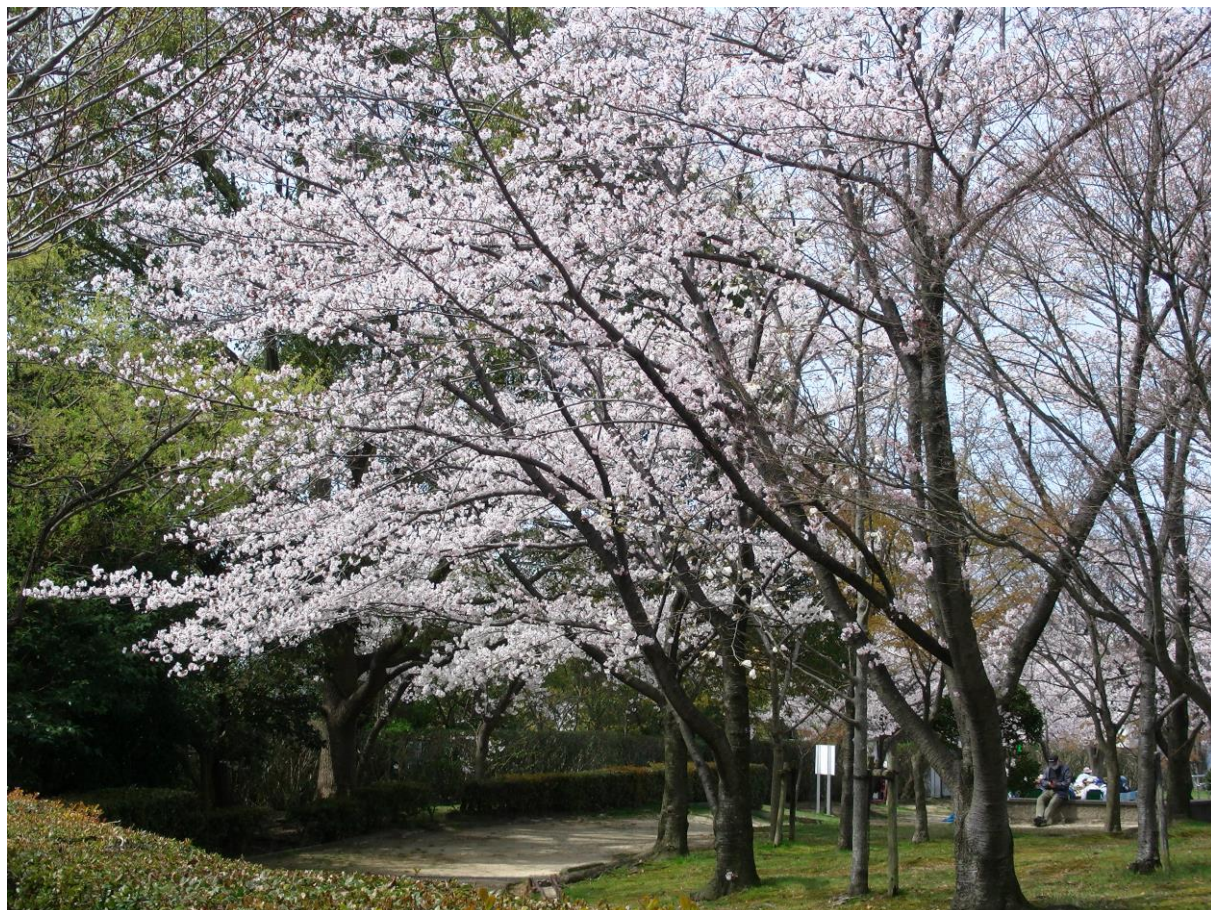


特定外来生物クビアカツヤカミキリによる
ソメイヨシノ等被害樹木の撤去処分基準（案）



令和元年 8 月
令和 4 年 2 月改正

一般財団法人富田林市公園緑化協会

目 次

クビアカツヤカミキリの加害樹種及び特徴	・・・ 3
クビアカツヤカミキリの生態と加害状況	・・・ 5～17
ソメイヨシノの撤去処分の判断基準	・・・ 18～22
ソメイヨシノの再生方法	・・・ 26
既存ソメイヨシノの予防方法	・・・ 27
啓発・広報活動	・・・ 28～31



特定外来生物クビアカツヤカミキリによるソメイヨシノ等被害樹木の撤去処分基準(案)

この基準は、特定外来生物クビアカツヤカミキリの増殖及び分散を防ぐことを目的として、被害樹木の撤去処分の必要性についての判断基準を明確にし、実施できる体制をつくる。

主な加害樹種

ソメイヨシノ・モモ・ウメなど

サクラ類は、サトザクラ、ヤマザクラ、ヨウコウザクラなどに被害がほとんど見られず、ソメイヨシノにほぼ集中している。

若年で幹の細いソメイヨシノは、現在のところ加害されていない。

特定外来生物クビアカツヤカミキリの成虫の外観の特長

体長は、5～7cm

首が赤色を呈している

全体的に黒色で光沢がある

独特な臭いがする

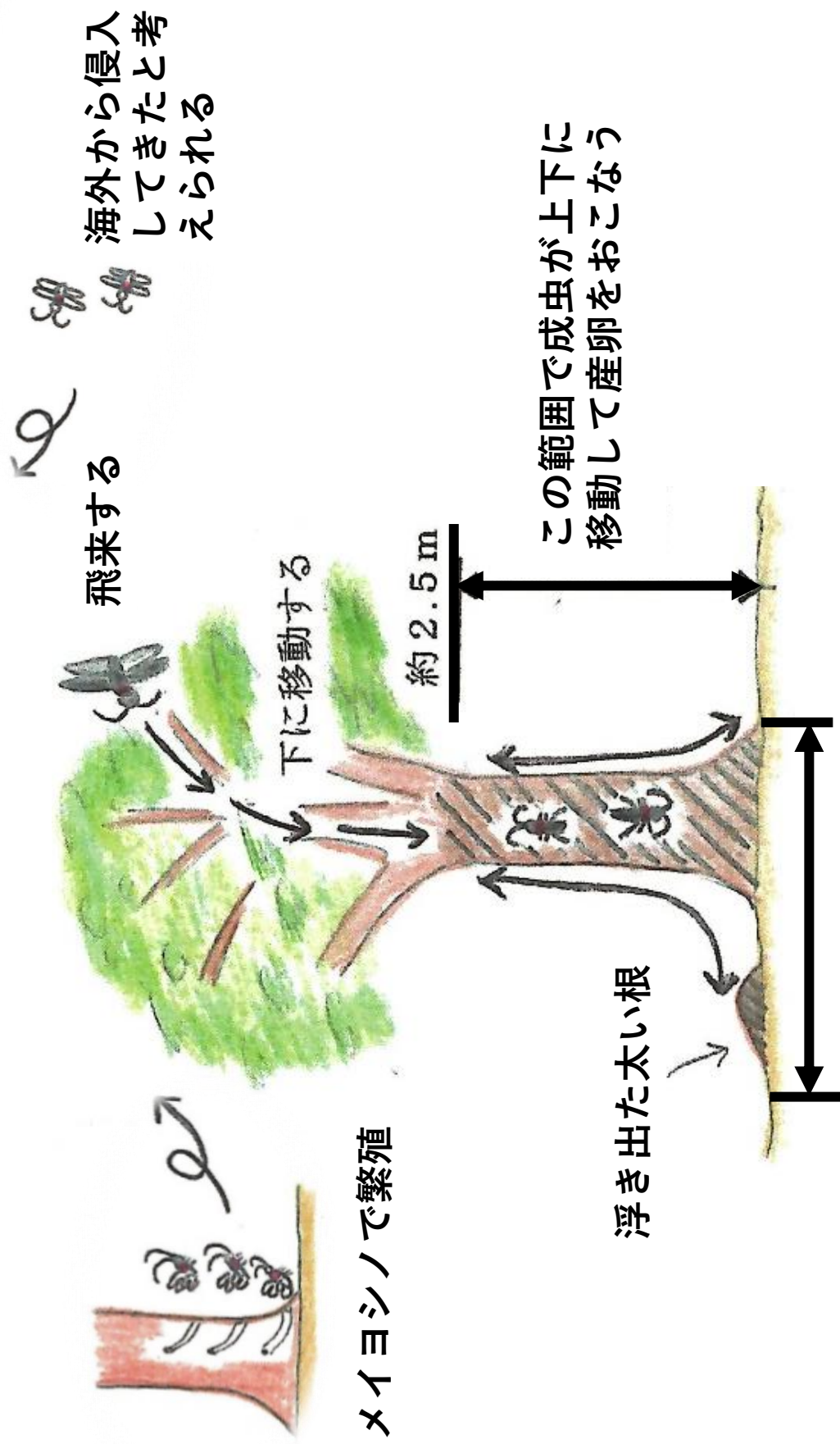


クビアカツヤカミキリ

学名：*Aromia bungii*

分類：コウチュウ目 カミキリムシ科

成虫の行動パターン



ソメイヨシノで繁殖

特定外来生物クビアカツヤカミキリの生態とソメイヨシノの加害状況

クビアカツヤカミキリの成虫は、最高気温が30℃を超えるようになると、蛹から羽化し成虫になり活動が活発になる。昼夜の平均気温が16℃を超える日が10日以上続くと、成虫が羽化し始めると考えられる。大阪は5月28日前後から観察できる。

成虫は30秒以上のロング飛行が可能である。

成虫は、日中は交尾と産卵活動をおこない、夜間は、動きが活発になり摂食活動と移動をおこなっている。

成虫の食用する主な摂取物は、クリ、コナラ、クヌギ、ソメイヨシノなどの樹液である。

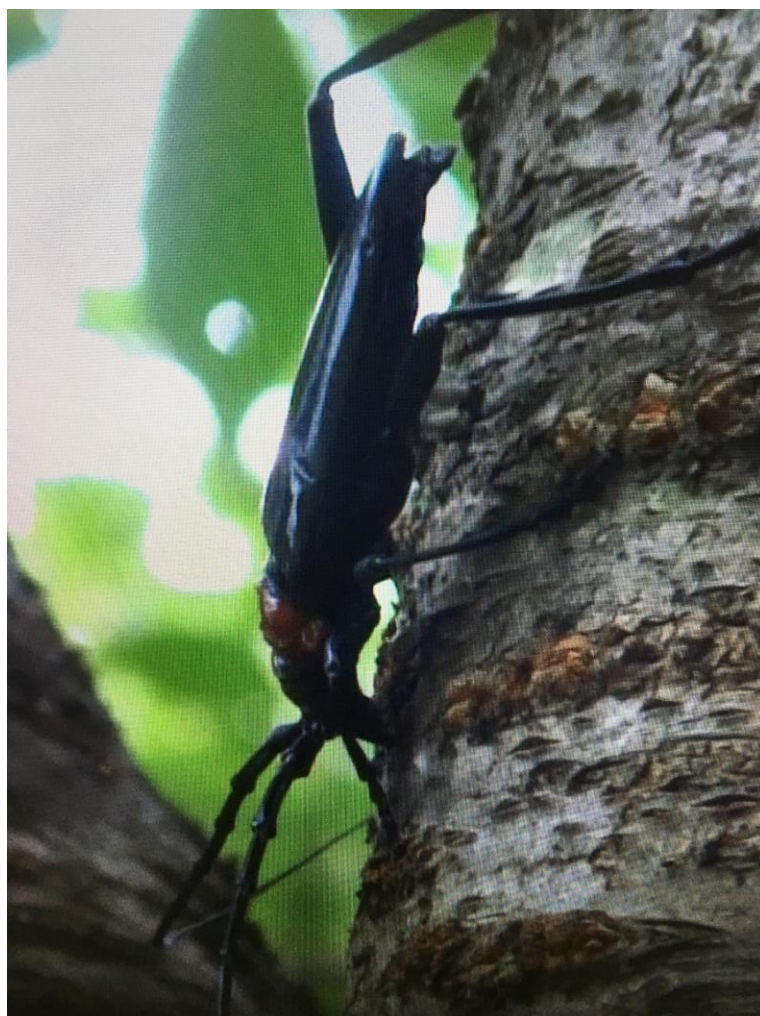
主に外敵の少ない夕方から夜間に摂食活動をおこなっている。

樹液の出ている幹や、休眠芽のある枝の薄皮部分をかじり、傷つけた樹皮部分から出てくる樹液を摂食している。

また、水分のみ与えると2か月前後、生存する。

成虫は、長い触覚を有効に動かし、すべての感覚をこの触覚で敏感に反応して把握し、行動していると思われる。

外敵が接近すると霧状の異臭を出して逃げる。また、成虫に接触すると独特な臭いが付着する。



日中は、交尾をしながら産卵活動をおこなう。

雄が雌を誘引する。

露出している太い根、根株から地上2.5mほどの高さの範囲に交尾したまま移動し、移動しながら複数個産卵していく。

卵は、1ミリ程の楕円形で淡黄緑色みのある白色である。

産卵パターンは、15cmおきに右あがりが多い。



クビアカツヤカミキリの卵から孵化した幼虫は、幹の内部に加害侵入する。侵入直後は、ソメイヨシノの幹から透明の樹液(ヤニ)を大量発生させて固結しているのが、侵入場所が確認できる。

コスカシバの幼虫も、ソメイヨシノの根元付近を加害侵入し、大量の樹液(ヤニ)を出して固結しているが、色は透明でなく茶色の木くずを含んだ様を呈しているのが区別ができる。

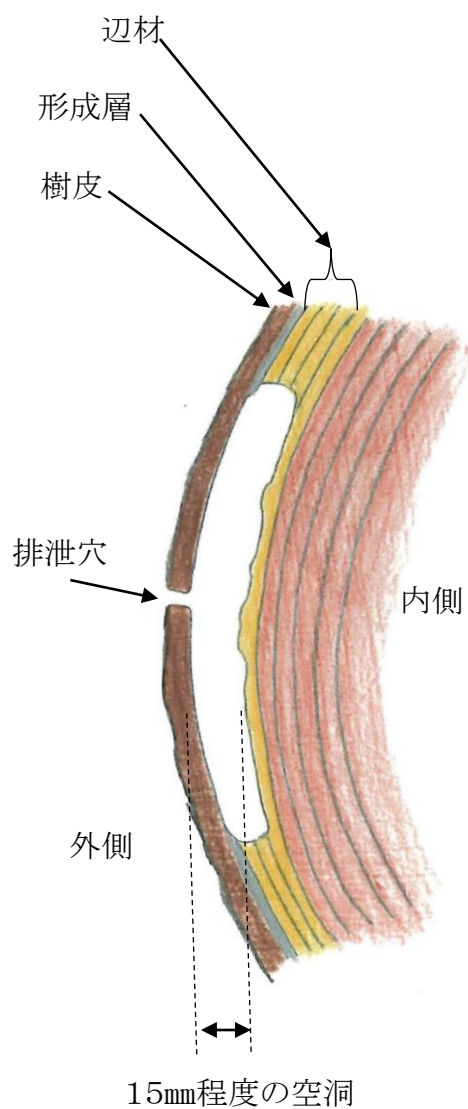


クビアカツヤカミキリの幼虫は、ソメイヨシノの幹の樹皮下の形成層を含む比較的柔らかい辺材部分約15ミリ幅で加害し、要所に排泄穴をあけ、排泄の時はその穴のある箇所に来て、外に排泄物(木くず)を出す。

クビアカツヤカミキリの幼虫の排泄物は、少し繊維質の連続して繋がった状態の木くずを出している。

4月に一度、排泄物が出なくなる。または、微量となるが、5月の連休後辺りから、大量の排泄物が出るようになり、秋まで続く。





形成層を含む、やわらかい
辺材部分を加害する



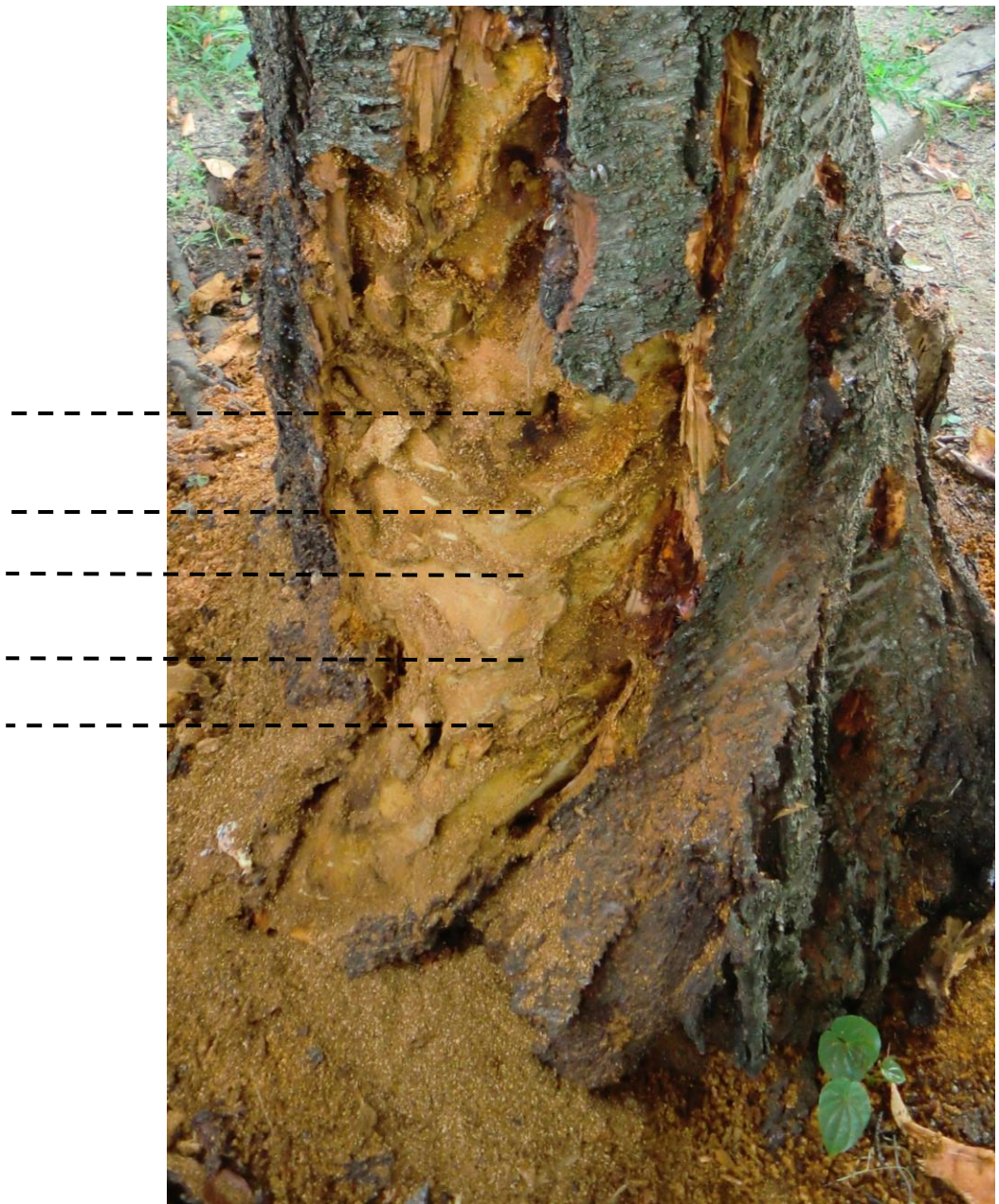
クビアカツヤカミキリの幼虫
右側が頭部

辺材部分を一定面積加害すると、次へ移動して加害を開始して新しい排泄穴をあけて、排泄物を出す。

加害パターンは、横広りの階層状に加害し、1層につき排出穴は1個つくる(仮説)

幹の加害される部分は、日当たりの良い南向きの日中の樹皮温度の高くなる部分を中心に加害されていく。

クビアカツヤカミキリの幼虫の活動は、排泄物で観察したところ、冬季は排泄物が出なくなり、3月になると排泄物がでる。



幼虫の縄張り



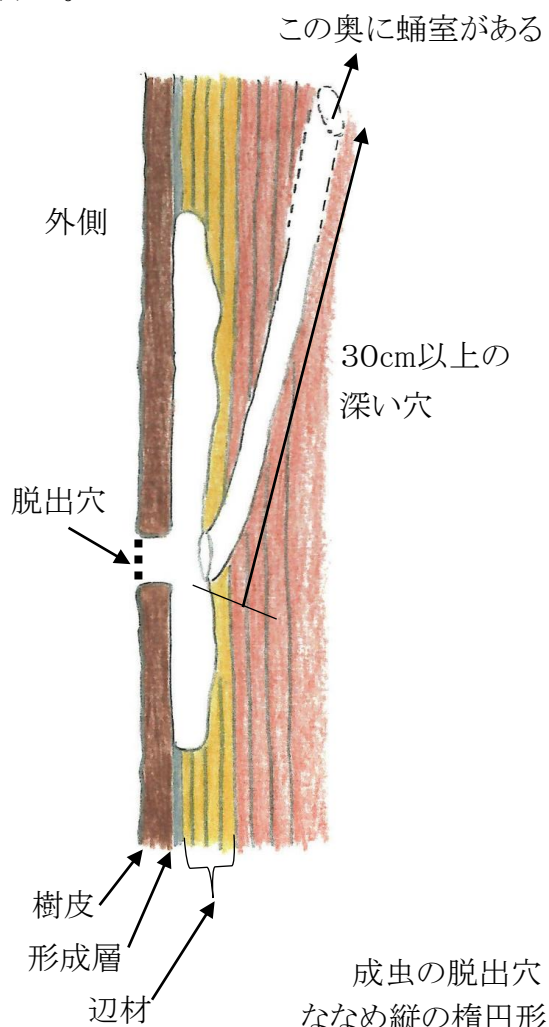
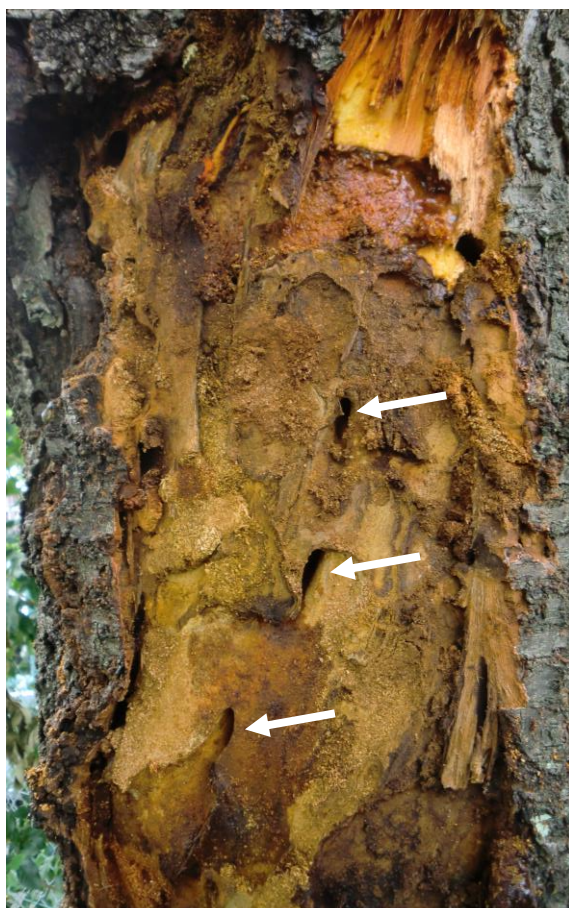
上の写真の樹木では、幼虫と幼虫が生育する境目の辺材部は、食害することなく、壁状に残され、縄張りがはっきりしていることが確認できる。5600cm²の樹幹表面に44匹(脱出孔)の跡がある。

終齢幼虫になるまでの食害範囲は、1匹あたり、平均70cm²。

摂食量は、1匹あたり、約105cm³が必要と思われる。

樹幹内の摂食範囲や、摂食箇所が少なくなると幼虫のまま死ぬことがある。また、1年または2年で成虫になることもある。

クビアカツヤカミキリの幼虫は、2年から3年間、ソメイヨシノの辺材部分を加害し、辺材から幹の中心方向に年輪に沿いながら斜め上方向奥へと加害して蛹室をつくり、石灰質の強固な蓋をして、蛹の状態で約1カ月間を過ごす。最高気温が30℃を超える6月頃から、羽化して成虫になり外へ脱出する。



クビアカツヤカミキリの被害を受けたソメイヨシノの幹の断面の状況

樹皮の内側の形成層を含む
辺材部が食害されている



無数のクビアカツヤカミキリの幼虫が侵入した跡がある



蛹室まで30cm以上の
材質部の奥深く
上向きに穴をあけている



蛹の状態で約1か月間を蛹室で過ごす

幼虫の一部が見えている



辺材を食害された部分
から、真っ白な不定根
を出している



脱出穴の跡



外への脱出に失敗した成虫

クビアカツヤカミキリの幼虫が加害して次の場所へと移動した跡の部分が、ソメイヨシノの樹皮下の辺材部分が空洞化し、蟻が巣を作り始める。蟻の巣は黒色を呈したキクズで形成され、移動のための通路も黒色の木くずによってドーム状に形成されている。

また、形成層が加害された枯死した材の部分にキクイムシが発生し、細かい砂のような木くずを外部に排出されている。

アリは肉食のため、アリの発生は、樹木の衰退につながる影響はないと思われます。

アリの通り道



幼虫が加害した後に、アリの巣やキクイムシが発生

キクイムシ等が持ち込んだ細菌により腐朽が進行し、キノコが発生

クビアカツヤカミキリの幼虫に加害された 樹木ソメイヨシノの撤去処分の判断基準

最も良い方法

クビアカツヤカミキリの成虫は、越冬できないので、成虫が加害樹木から飛び出す前の幼虫や蛹の間に樹木ごと撤去処分をおこない駆除することが確実な方法と思われる。

クビアカツヤカミキリ幼虫の加害が確認されたら、樹体内に存在する間の2年以内に加害樹木の撤去処分をおこない、成虫の羽化を完全阻止する。

しかし、国花であるサクラの花を愛する国民の感情を考えると、クビアカツヤカミキリの幼虫による加害が激しい状況であっても、枝葉を青く茂らせているソメイヨシノを根元から切るという決断は難しいと考える。

また、加害されて樹勢が衰弱したソメイヨシノであっても、春のサクラの開花時期をひかえた冬季や開花前後は、根元から切る作業に対して、苦情が寄せられると思われる。

ソメイヨシノの撤去処分をおこなうタイミングとして、ソメイヨシノの樹勢の衰退状況とクビアカツヤカミキリの加害の進行状況を把握して判断する必要がある。

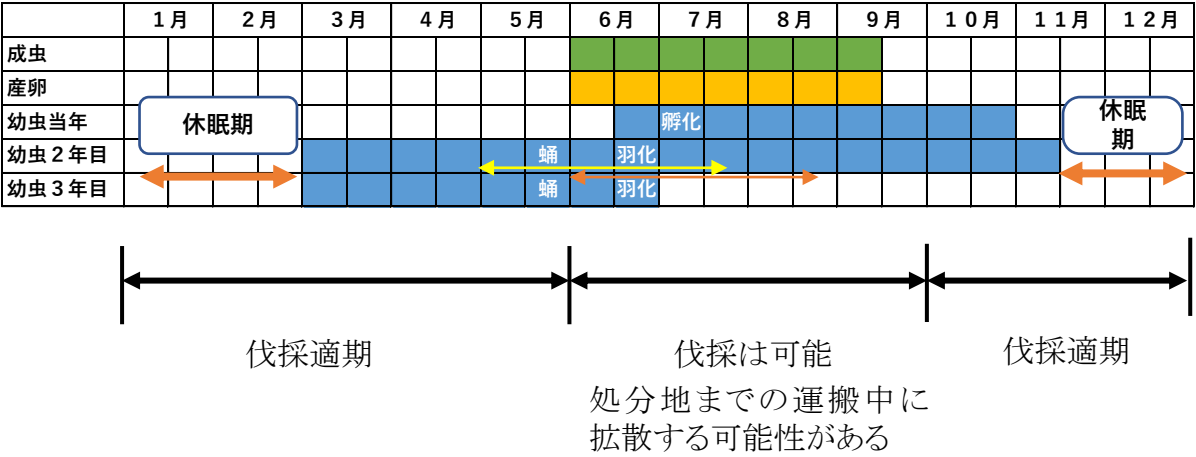
撤去木の処分方法

撤去後、速やかに焼却施設にて処分またはリサイクル施設にてチップ処理をすること。

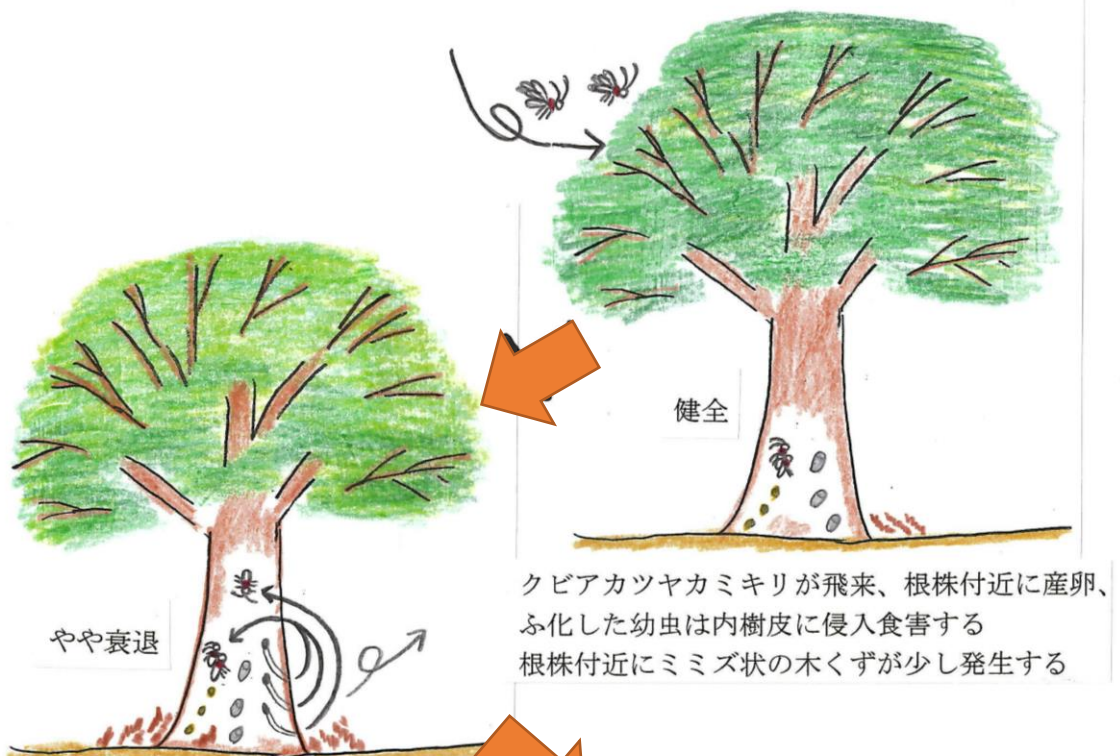


クビアカツヤカミキリの幼虫に被害を受けたソメイヨシノの伐採適期

クビアカツヤカミキリの生活環

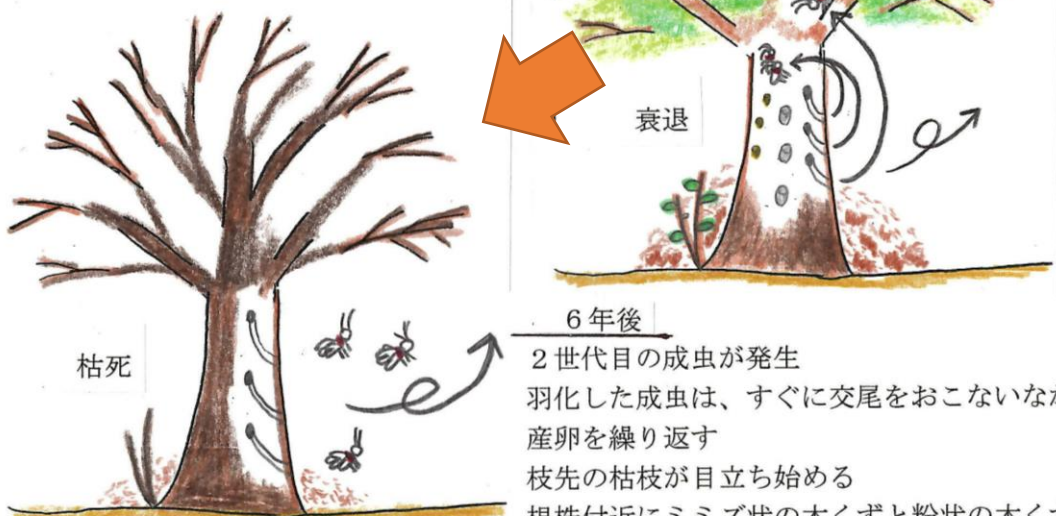


クビアカツヤカミキリによる被害により
健全木が枯死に至るまでの経過



3年後

1世代目の成虫が発生
羽化した成虫は、すぐに交尾をおこないながら
産卵を繰り返す
葉の緑色が薄くなり、葉量がすくなくなる
根株付近にミミズ状の木くずが大量に発生する



8年後

3世代目の成虫が発生
2年生以上の幼虫は蛹になり、その後、羽化して
外へ出て成虫は、分散して他の元気な樹木へ移動する
根株付近に粉状の木くずが大量に発生する

伐採時期による被害の差（○印の方が伐採適期）



1月～6月上旬



幼虫や蛹は
樹体内で冬眠

成虫は越冬できない

この時期に、樹木を撤去処分



新しくヒコバエが発生し、
樹木が再生する



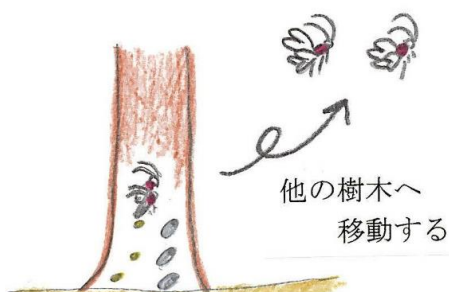
被害縮小



6月中旬～9月



冬眠していた蛹は、羽化し外へ
2年生以上の幼虫は蛹になり、
その後、羽化し外へ出る



他の樹木へ
移動する

羽化した成虫は、すぐに交尾を
おこないながら産卵を繰り返す



樹木は完全に
枯死、撤去処分

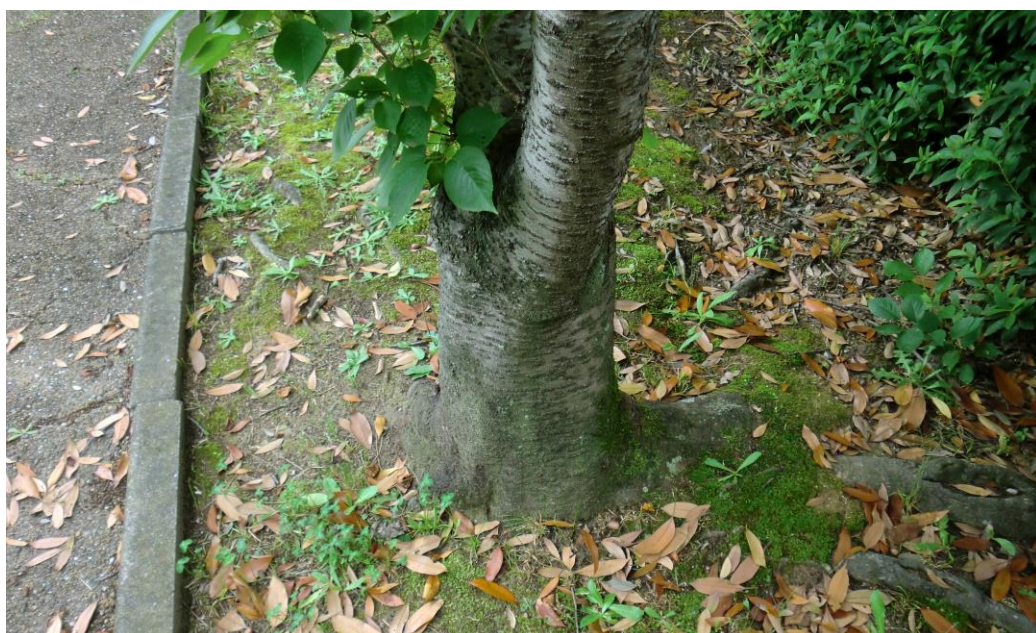


他の元気な樹木へ
分散し、移動する

被害拡大

撤去の必要なし

根元に木くずの繊維質が繋がった排泄物がない
健全なソメイヨシノ



1年後に撤去対象木

根元に木くずの繊維質が繋がった排泄物の堆積が数箇所ある
幹にヤニの出ている箇所が数箇所ある
葉の量や大きさは健全な樹木と変わらない



撤去対象木(6月上旬までにおこなう)

根元に木くずの繊維質が繋がった排泄物が多く堆積

葉が小さくなり空が透けて見える

幹にヤニの出ている箇所が多数がある

成虫発生直前の樹木なので、6月上旬までに伐採撤去することで被害木の拡散を防ぐことができる



撤去対象木(至急)

根元に木くずの繊維質が繋がった排泄物が多く堆積

根元に粉状の木くずが大量に堆積

樹木の70%以上枯死状態

成虫が羽化し、外に出て拡散してしまった樹木



樹脂が出なくなる

樹木の材質部の水分が
減少したことにより
乾燥した排泄物になるので
木くずが粉状になる



撤去対象木(至急)

幹に脱出穴の跡が多数あり、樹木が枯死状態



樹皮は完全に枯死状態



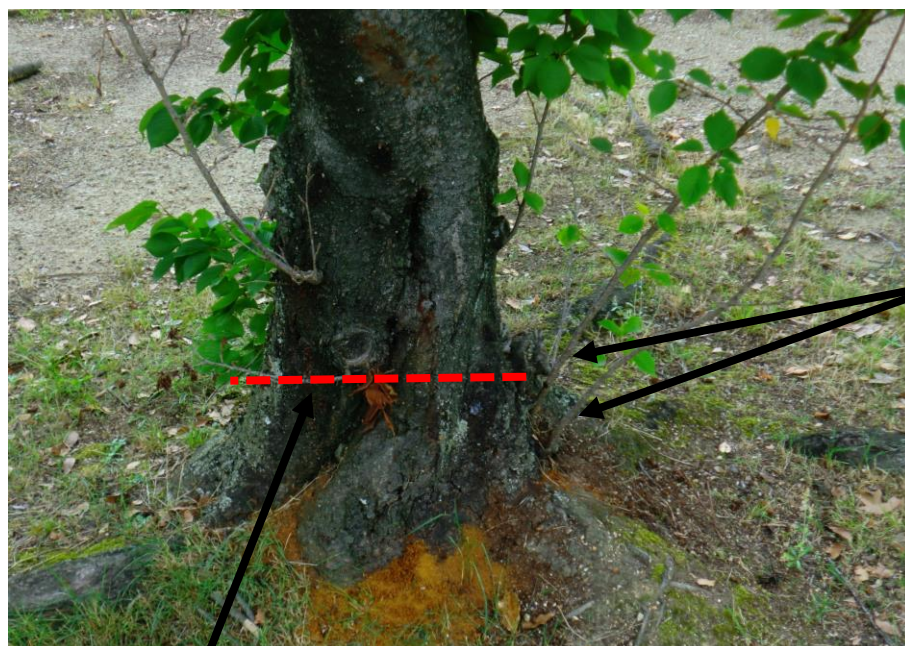
ソメイヨシノの再生方法

サクラは、枯れたり切り倒した跡地に新たにサクラを植栽すると、花が咲かなかったり、育たなかったり、根が病気(がんしゅ病)になるなど、嫌地現象となります。

同じ場所に再びサクラを短い年数で確実に大きく育てる方法としては、撤去対象樹木が完全に枯死する前に根株から切取撤去をおこない、未だ枯死していない根株を残して、その根株付近に残る休眠芽からヒコバエを発生させて、樹木として育てる。

この方法は、既存のサクラの根と休眠芽を利用して、新たに根を発根させてヒコバエを樹木にするので、最も効率的で経済的に再生できる。

若い樹勢が旺盛なソメイヨシノには、クビアカツヤカミキリが産卵しないと思われる。



根元で切取撤去

ヒコバエを残す

切株から成長してきた
ヒコバエ

5～10年後に
立派な樹木になる



既存のソメイヨシノの予防方法

現時点では、ソメイヨシノに加害するクビアカツヤカミキリの幼虫の駆除は困難である
と考える。また、幼虫を駆除しても再び成虫が産卵し、幼虫が加害する。

気温が30℃を超える日が続く季節は、クビアカツヤカミキリの成虫が飛び回り、ソメイ
ヨシノの根元付近に産卵をおこなうのが現在の状況である。

クビアカツヤカミキリの根絶は不可能であり、繰り返し海外から侵入してくる状況で、
既存のソメイヨシノを守るためには、そのクビアカツヤカミキリの成虫が寄り付かない予
防方法が必要であると考えます。

予防方法として、別のクビアカツヤカミキリ防除マニュアル(案)をご覧ください。



成虫が発生する時期に合わせた広報活動

業 務 連 絡

令和元年 5 月 3 0 日

各関係者 様

一般財団法人富田林市公園緑化協会

クビアカツヤカミキリの捕殺について（お願い）

各施設の敷地内にソメイヨシノ、ウメ、モモの樹木が植栽されてましたら、その幹にクビアカツヤカミキリが寄生していることがあります。

発見次第、ただちに足で踏むつぶすなどにより捕殺していただきますようご協力をお願いします。



富田林市緑化協会作成の学校等関係者向けチラシ

樹木区相談コーナー

クビアカツヤカミキリ (その2)

前回、クビアカツヤカミキリのことを掲載したところ反響が大きかったので、さらに現在分かっている範囲の情報を載せたいと思います。

2015年あたりから、日本で被害がでてきたクビアカツヤカミキリは、2018年1月に「特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」による特定外来生物に指定されました。これにより、飼養・保管・運搬・輸入・野外への放出などが原則禁止となります。

クビアカツヤカミキリは、モモ、スモモ、サクラ、ウメなど主にバラ科の樹木に発生し、特に身近なところでは、ソメイヨシノの老木に好んで卵を産み付け幼虫が材を食害する被害が報告されています。ソメイヨシノの老木の樹皮が剥がれていたり皮目がめくれたり、ゴウゴウしていたりする隙間に多くのクビアカツヤカミキリが産卵しているようです。逆に若木でフロンとした樹皮のソメイヨシノへの被害は今のところ少ないようですが、産卵する樹木が少なくなれば、なりふり構わず除々に移行していくかもしれません。



幼虫



サクラの木のフラス(木くずとフンの混合物)

ふ化した幼虫は木の材を食害し2年から3年で成虫になるといわれています。サクラはもともと硬い樹種ですが、2年も木の中で食害されつづけてはたまったものではありません。早期発見・駆除が重要となっていますが、いまだに日本での成虫・幼虫の行動が十分に把握されていないのが現状で、駆除の方法は成虫の捕殺と木の内部にいる幼虫の薬剤による駆除となっています。成虫を見つけたら捕殺するのが大原則です。幼虫は針金を食害穴の中に差し込み幼虫を刺殺する方法や、薬剤ノズルを食害穴に差し込んで噴霧するのが一般的ですが、穴の奥（幼虫が食害して通った穴）が上下左右にうねっているため、なかなか針金や薬剤が幼虫まで届きにくいというのが現状です。バラ科の樹木には果樹として有用なものが多く、またソメイヨシノは日本の春の風景には欠かせない樹木です。早く駆除体制が確立することが望まれています。

クビアカツヤカミキリ (成虫・幼虫) を見つけたら捕殺をお願いします。

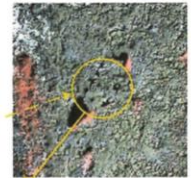
- ・フラスと呼ばれる幼虫が排出する木屑とフンの混合物。(写真1)
- ・クビアカツヤカミキリの幼虫から成虫になって樹木から脱出する痕(写真2)
- ・成虫の発生時期6月～8月中旬ごろ



(写真1)



(写真2)



この部分は脱出するための穴を目立たなくするため木の皮の一部を残してフタのように細工しています。幼虫から成虫になって出ていく時にこのような穴が見られます。

大阪府での問い合わせ先

【外来生物法・特定外来生物に関すること】

環境省 近畿地方環境事務所 野生生物課

電話 06-4792-0706

大阪府 環境農林水産部 みどり推進室 みどり企画課 総務・自然環境グループ

電話 06-6210-9557

【農地や果樹園での被害に関すること】

大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ

電話 072-957-0530

参考文献

クビアカツヤカミキリ被害対策の手引き書（暫定版）

地方独立行政法人 大阪府環境農林水産総合研究所

- ・ 富田林市公園緑化協会発行
- ・ みどりの情報誌「グリーン・あい」
- ・ 2018.1
- ・ 2018.10
- ・ 2019.10
- ・ 2020.4 掲載

クビアカツヤカミキリからソメイヨシノを守りましょう。

お花見と言えばサクラ、そして入園、入学の季節にはサクラが咲いている。春に咲く花といえばサクラ、特にソメイヨシノを思い浮かべる方も多いと思います。しかし、近年サクラの幹を食害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の被害が増加しています。ソメイヨシノの幹に、クビアカツヤカミキリの成虫を見かけたら、捕殺をしていただきますようご協力をお願いします。



ソメイヨシノの根元から幹の高さ2.5mまでの範囲で南向きに多く見られます。

2匹が重なっていると、幹に産卵活動をしています。



一日の平均気温が16℃以上になる5月下旬頃から、クビアカツヤカミキリの成虫が飛び回ります。

成虫は、ソメイヨシノの幹に産卵し、その幼虫が幹の中に穿孔して食害を繰り返す、ソメイヨシノを枯らせてしまいます。

漢字クイズの答え ①サザンカ ②オリーブ ③タンポポ ④ヒヤシンス ⑤ドウダンツツジ

クビアカツヤカミキリにご注意を

クビアカツヤカミキリは、幼虫がサクラやウメ、モモなどの木に入り込み、内部を食い荒らしてしまう特定外来生物です。

全体的に光沢のある黒色で、胸部（クビの部分）が赤いのが特徴です。

被害拡大を食い止めるため、クビアカツヤカミキリの成虫を見つけた場合は、その場で踏みつぶすなどにより駆除していただきますようご協力をお願いします。

※生きたまま持ち運ぶことは違法となりますのでご注意ください。

問い合わせ 環境衛生課（内線139、171）



環境省提供

2020.6

2020.6 掲載

2021.5

クビアカツヤカミキリにご注意を

クビアカツヤカミキリは、幼虫がサクラやウメ、モモなどの木に入り込み、内部を食い荒らしてしまう特定外来生物です。

被害拡大防止のため、クビアカツヤカミキリの成虫を見つけた場合は、その場で踏み

つぶすなどにより駆除していただきますようご協力をお願いします。
※生きたまま持ち運ぶことは違法となりますのでご注意ください。

環境衛生課（内線139、171）



2021.5 掲載

富田林市広報



脱出孔から出ると同時に下半身を踏み潰された成虫



幹を移動中に踏み潰された成虫

クビアカツヤカミキリについて

(お願い)

クビアカツヤカミキリは、幼虫がサクラやウメ、モモなどの木に入り込み、内部を食い荒らしてしまう特定外来生物です。

クビアカツヤカミキリの成虫を見つけた場合は、**その場で踏みつぶすなどにより駆除**していただきますようご協力をお願いします。(生きたまま持ち運ぶことは違法となります。)



クビアカツヤカミキリの幼虫(拡大)と
大量のフラス



クビアカツヤカミキリの成虫
体長 2.5~4cm

クビアカツヤカミキリは、幼虫が木の内部に入り込み、大量のフラス(幼虫のフンと木くずが混ざったもの)を排出します。幼虫は木の内部で2~3年かけて成長し、さなぎから成虫になります。成虫は5月末~8月に幹の穴から発生し、飛び回って幹の割れ目に産卵します。

富田林市

富田林市作成
注意喚起用看板



歩行者専用道路
注意喚起用立て看板



公園入口
注意喚起用ラミネート看板

制作・編集

一般財団法人富田林市公園緑化協会

土居常隆(樹木医)

澤田昌紀(技術職員)

山本美加(樹木医)

令和元年8月 発 行

令和2年6月 一部改正

令和2年9月 一部改正

令和4年2月 一部改正

